

JAXA宇宙飛行士の星出彰彦さんへインタビュー。子どもの頃より憧れ続けた宇宙への旅。夢に向かって挑戦し続けた道のりと、その先に広がる宇宙の景色やこれからの目標についてお話をうかがいました。

もう一歩踏み出して チャレンジしてほしい



©JAXA/NASA/Norah Moran

JAXA宇宙飛行士 星出 彰彦さん Profile

世田谷区立二子玉川小学校出身。慶應義塾大学理工学部機械工学科卒業後、UNIVERSITY OF HOUSTON CULLEN COLLEGE OF ENGINEERING航空宇宙工学修士課程修了。NASDA (現JAXA) でのH-IIロケットなどの開発業務を経て、1992年に宇宙開発事業団 (現JAXA) に入社。1999年に日本人宇宙飛行士の候補者として選抜後、2001年に宇宙飛行士として認定される。2008年、2012年、2021年にISSへ向かい、様々な研究実験や船外活動等に従事した。

宇宙への憧れと挑戦
—ご出身の区立二子玉川小学校ではどのように過ごしていましたか。
二子玉川小学校は、多摩川に非常に近いということもあり、愛鳥モデル校として、野鳥の観察に力を入れていた学校でした。学校では、友達と川や近隣の林へ行き、鳥を見たりということもしていました。家でテレビを見たり、河原へ行って遊んだり、いろいろやっていたような記憶があります。また、宇宙に行きたいという思いが強くなり始めていた頃で、毎年、将来の夢を作文にするときに、パイロット、警察官、消防士とか、いろいろなことを書きつつも、やっぱり宇宙に行きたいと思っていました。

—実際に宇宙飛行士になろうと思ったきっかけは何ですか。
私が高校生の時に、初めての日本人宇宙飛行士、毛利さん、向井さん、土井さんが選ばれたことを受けて、「宇宙飛行士という職業があるんだ」、「宇宙飛行士になれば宇宙に行けるんだ」というのが急に現実味を帯びて、それ以降、頭の片隅で、「宇宙飛行士になるためにはどうしたらいいだろう」と常に考えていました。
—宇宙飛行士になるために、学生時代はどのようなことをしていましたか。
英語と国際感覚は身につける必要があると思い、高校生のときにシンガポールの学校に2年間留学しました。英語を身につける、いろいろな国の人たちとやり取りができるようにしたいという思いから、留学に踏み切りました。

—宇宙から見た地球の美しさとチームの結束力
—実際に宇宙を飛んでみてどのようなことを感じましたか。
宇宙ステーションにキューポラという大きな窓があつて、そこはもう離れがたいところでした。「10分ぐらい地球を見ようかな」と思っていると、2時間ぐらい時間が過ぎ去っていたという経験が何度もありました。90分で地球の周りを一周するため、山、森、海、砂漠、夜の街の明かりなどいろいろな景色が次々と現れて、ものすごく美しいんです。これはもう写真とかでは切り取れない。自分の目で見ると、自分の肌で感じるからこそその美しさだと思います。

—今後の目標について
—最後に、世田谷区の子どもたちへメッセージをお願いいたします。
例えば、受験だとかスポーツだとか、いろいろな世界で壁にぶち当たることがあるとは思いますが、それでも一歩踏み出してチャレンジしてほしいと思います。私も、試験を3回受けて宇宙飛行士になりましたが、一回目あるいは2回目で挫折して、3回目の受験に踏み切らなければ、今ここでこうしてお話してはなかつたわけです。それから、いろいろな経験をしてほしい。宇宙で活動するクルーの中には、様々なバックグラウンドを持った人たちがいます。パイロット、エンジニア、医師など、いろいろな人がいる中で、それぞれの経験を持ち寄って一つの大きな強いチームとして、宇宙で活動しています。私は宇宙飛行士になる前はエンジニアでしたが、どんな職業に就いても、いろいろな経験をしたい、いろいろなことを身につけて強く生きていってほしいと思います。



©JAXA/NASA